



# 第6回 『科学・技術とヒューマニティ』

懇話会テーマ

## 研究開発と倫理

毎年好評を博しております「科学・技術とヒューマニティ」セミナーも、おかげさまで第6回を開催することになりました。

今回のセミナー中の懇話会では、「研究開発と倫理」というテーマのもと、第1日は、千葉大学教授・神里 達博氏、第2日は、東京工業大学教授・札野 順 氏をお迎えし、ご講話いただく予定です。

セッションのテキストを含めて、広く科学・技術に興味・関心のある方が対象となります。専門、専門外に関わらず、ぜひともご参加をご検討下さいますようお願い申し上げます。



プログラム・ディレクター 兼 モデレーター

村上陽一郎 先生

東京大学名誉教授（科学史家、科学哲学者）  
一般社団法人日本アスペン研究所副理事長

【開催日】 2019年5月17日（金）～5月19日（日）

【会場】 クロス・ウェーブ府中  
〒183-0044 東京都府中市日鋼町 1-40

<http://x-wave.orix.co.jp/fuchu/>

### 【科学・技術とヒューマニティ・セミナーの企画の背景】

「エグゼクティブ・セミナー」、「ヤング・エグゼクティブ・セミナー」の卒業生から、「古典に学ぶ」対話の次の段階を求める声も多く聞かれます。本セミナーは、そのような皆さまからの要望に応えると共に、過去のアスペン・セミナーに参加しておられなくても科学・技術の意思決定に関わる立場の方々を意識して構成した全く新しいセミナーです。

### 【第6回の展望】

世はイノベーションの花盛り。基礎研究者も、製品やシステム開発に当たる研究者も、新機軸を追って身をすり減らしている。無論そこには創造の喜びもあるし、社会の進歩への貢献という責任感もある。しかも、新しく開発された成果が、開発者の当初の想定を遙かに超えて、社会のなかで「発展」していく事例も少なくない。ただ、それがすべて「正」の価値の実現であるとは限らない。その上、技術的に可能なことは、すべて目一杯に追求するという傾向を持つのが現代資本主義社会である。そうした中で、開発に当たる研究・開発者の倫理はどうなければならないか。今回はそうした問題意識を根底に持つセミナーとしたい。

(村上 陽一郎 先生 記)

【対象】 企業、行政、NPO など広い分野から、役員・管理職・次世代のリーダー候補の参加者を募ります。ただし対話という性質上、原則 20 名を限度とさせていただきます。

### 【スケジュール】(予定)

	1 日目 5月17日(金)	2 日目 5月18日(土)	3 日目 5月19日(日)
午前 の部		8:30~12:00 セッションⅡ 「デモクラシー」	8:30~12:00 セッションⅢ 「科学・技術と社会」
	11:00~12:20 オープニング・セッション		
午後 の部	13:00~16:35 セッションⅠ 「ヒューマニティ」	13:00~14:30 オープンカフェ 14:30~16:30 自主研修	13:00~15:30 総括セッション
	16:50~18:50 懇話会Ⅰ	16:30~18:30 懇話会Ⅱ	
	19:00~20:30 レセプション	19:00~20:30 夕食会	

## 【懇話会 I】

講演者： 神里 達博 氏

(千葉大学教授、朝日新聞客員論説委員)



1967 年生まれ。東京大学工学部卒。東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得満期退学。科学技術庁、三菱化学生命科学研究所、大阪大学特任准教授などを経て、現職。博士（工学）。

専門は科学史、科学技術社会論。

主な著書に『食品リスク—BSE とモダニティ』（弘文堂／2005 年）、『科学技術のポリティクス』（城山英明編／東京大学出版会／2008 年／分担執筆）、『没落する文明』（萱野稔人との共著／集英社新書／2012 年）など。

講演題目： 「科学技術研究とイノベーション」

要旨： 近年、科学技術研究は、「イノベーション」と一体的に語られるようになってきた。実際、内閣府の「総合科学技術会議」は、2014年に「総合科学技術・イノベーション会議」と名を変えた。しかし、そもそも科学、技術、そしてイノベーションは出自の異なる別ものである。これらはいかなる理由で結びついたのか。この背景を確認するために、まずは日米の科学技術政策のおおまかな流れを確認し、イノベーションが科学技術政策のシーンにどのように入り込み、主題化していったのかを概略的に跡づける。これらを踏まえ、最近、主として欧州で重視されるようになった「責任ある研究・イノベーション（RRI）」の考え方を参照しつつ、科学技術研究とイノベーションのあるべき関係について展望したい。

## 【懇話会 II】

講演者： 札野 順 氏

(東京工業大学リーダーシップ教育院教授兼 リベラルアーツ研究教育院教授)



1956 年生まれ。国際基督教大学大学院教育学研究科博士前期課程修了、スミソニアン研究所アメリカ歴史博物館大学院生フェロー、オクラホマ大学大学院科学史研究科博士課程修了(Ph.D.取得)1990 年 金沢工業大学助教授、1994 年金沢工業大学教授、2004 年 同大学大学院工学研究科専攻共通主任、同大学科学技術応用倫理研究所所長、2015 年 9 月 東京工業大学大学マネジメントセンター教授、2016 年 4 月より現職。現職の他にも、金沢工業大学 名誉教授・客員教授、放送大学客員教授、東京大学生産技術研究所

顧問研究員等、多数の役職を兼務。専門は、科学技術倫理、科学技術史、科学技術社会論。著書に、編著『技術者倫理』（放送大学教育振興会、2004）；共著『実践のための技術者倫理』（東京大学出版会、2005）など多数。

講演題目： 「科学技術倫理 2.0 一人と組織と社会の well-being を目指して」

**要旨：** 万学の祖といわれるアリストテレスの主著『ニコマコス倫理学』の主題は、 *eὐδαιμονία* (well-being/flourish/happiness)、すなわち、「よく生きる」ことである。つまり、倫理の本来の意味は、「よく生きる」ためにどのように行動するかを考察し実行することである。しかしながら、これまでの科学技術倫理は、事故や不祥事などを取り上げ、やってはならないことを強調する「予防倫理」が中心であった。しかし、近年、科学者・技術者として何をなすべきかを考える「志向倫理」の重要性が指摘されている。また、脳神経科学・心理学・行動経済学などの領域で、well-being に関する「科学」的な検討が進んでいる。本講演では、well-being の最新の科学的知見に基づき、新しい時代の科学技術倫理について考察する。

【モデレーター】

村上 陽一郎 先生 (東京大学名誉教授)

渋谷 治美 先生 (埼玉大学名誉教授)

【リソースパーソン】

荻野 弘之 先生 (上智大学文学部教授)

藤山 知彦 氏 (科学技術振興機構研究開発戦略センター上席フェロー)



渋谷先生



荻野先生



藤山氏

【テキスト】 カント『啓蒙とは何か』 / リッケルト『文化科学と自然科学』 / ホワイト『機械と神』 / シャルガフ『ヘラクレイトスの火』 / プラトン『国家』 / トクヴィル『アメリカのデモクラシー』 / オルテガ『大衆の反逆』より「専門家の野蛮性」 / 福沢諭吉『学者の職分を論ず』 / ウェーバー『職業としての政治 / 職業としての学問』 / スノー『二つの文化と科学革命』 / シュレーディングガー『生命とは何か』 / ブッシュ『科学—この限りなき前線』 / モノー『偶然と必然』 / 小林傳司『トランス・サイエンスの時代』

以上の作品からそれぞれ抜粋した全 14 テキスト

※テキストは本セミナーのために厳選しましたので、他のセミナーのテキストとは異なります。

【参加料金】 会員企業 : 25 万円/人  
賛助会員企業、FI0-ズ 会員 : 27 万円/人  
非会員企業、非FI0-ズ 会員 : 29 万円/人

(各税別)

【お支払方法】 参加確定後、請求書をご送付いたします。請求書に記載の期日までにお振込みください。

【テキスト送付時期】 3月下旬～4月上旬を予定

【キャンセルについて】

お申込み後キャンセルされる場合につきましては、以下のとおりキャンセル料金を頂戴いたしますので、ご了承ください。

【キャンセル料金】

参加確定後	¥30,000（税別）
セミナー開催 30 日前～開催 8 日前 （開催日初日を含まず起算）	参加料金の 3 割（税別）
セミナー開催 7 日前～開催 2 日前 （開催日初日を含まず起算）	参加料金の 4 割（税別）
開催日前日および開催日当日	参加料金の 5 割（税別）

参加ご希望の方は、添付の申込書にて、必要事項をご記入の上

FAX： 03-3405-1668 または電子メール [mimura@aspeninstitute.jp](mailto:mimura@aspeninstitute.jp) にて

2019年3月4日（月）までにお申込み下さい。 原則定員 20 名とさせていただきます。

参加の可否につきましては、申込み締切後にご連絡致します。

※ 本ご案内は、会員企業と過去のアспен・セミナー参加者の皆さまにお送りしておりますが、どなたでもご応募いただけます。

※ 万が一お申込み多数の場合は、会員企業からの派遣を優先させていただきます。

※ また、同一企業からのご参加は、人数を制限させていただく場合がございます。

詳しくは日本アспен研究所セミナー事務局に、できればメールにてお問い合わせください。

一般社団法人日本アспен研究所（三村）

〒106-0032 東京都港区六本木 6-15-21 ハークス六本木ビル2階

TEL: 03-6438-9208

E-mail: [mimura@aspeninstitute.jp](mailto:mimura@aspeninstitute.jp) / FAX: 03-3405-1668